中国高等教育普及の新たな展開 —有名大学のネットワーク教育学院について—

方 如 偉
(九州女子大学)

はじめに

1999年に中国政府は大学拡大募集の政策を打ち出した。その結果、2001年までのわずか3年間で在学者数が倍増し、大学進学率も15%に上がった。また、2003年には、北京市と上海市はすでに50%を越えている⁽¹⁾。その背景には、経済発展の要請と個人需要の高まりがまず考えられることではあるが、高卒就職難の対策及び景気浮揚の効果も指摘されている。

この拡大募集の流れに生まれ、急成長を成し遂げたのが、有名大学に設置された「ネットワーク教育学院」(大学のネット版、以下「ネットワーク教育学院」とする)である。

1. 「ネットワーク教育学院」の設置について

1999年の教育省の通達によって、名門の清華大学等4大学に「ネットワーク教育学院」が誕生した。同ネット大学の設置について、通達は「ネットワーク等の情報技術を活用し、新しい教育モデルを作り出す」としながらも、「高等教育

規模の拡大」や「生涯教育の推進」等の表現も盛り込まれている⁽²⁾。また、同年に出された内閣が批准する「21世紀に向けた教育振興行動計画」において、教育省は「ネット大学の普及による継続教育制度の確立」と宣言した⁽³⁾。これらを踏まえ、教育省が毎年有名大学に限って、数校ずつ「網絡教育学院」の設置許可を出している。2003年12月現在、67校の有名大学に「網絡教育学院」の設置が許可された。(ほか中央放送大学1校)。

2. 華東師範大学「網絡教育学院」の事例

筆者は昨年、華東師範大学「網絡教育学院」を訪問した。本校のキャンパスにある6階建てのビルに、ネットサーバー、衛星送受信設備、専用のスタジオなどが揃っている。

常務副院長徐伯興教授の紹介によれば、同「網絡教育学院」の院長は学長が兼任し、副院長3人、専任教員と技術スタッフを併せて約40名の教職員が在籍している。「網絡教育学院」の専任教員は若手が多くて、主にBBCやチャットで学生の指導に当たっている。公式の講義は、他の学院(教育学院, 理学院, 外国語学院)の教授陣にお願いしている。「ネット教育こそ、いつも最適の教授陣で最高レベル講義ができる」という。

「網絡教育学院」は専用のスタジオまたは、実際に講義が行われた教室で映像を撮り、衛星やウェブ上の中継で地方の「学外学習センター」(以下、センターとする)に送信する。そしてDVDに作成して配布する。

「網絡生」(ネット学生, 以下「網絡生」)は、自宅あるいは地方の「センター」に通って、送られた衛星放送をみたり、「センター」に備えた端末を使って、直接本部に接続して閲覧する。「センター」は、「網絡生」の学業指導と学籍管理(入試監督, 学費納付)を行う。

次の表は、北京と上海の一部の網絡教育学院の概略を示している。

表 北京上海一部「ネットワーク教育学院」の紹介

大学名	清華大学	北京大学	中国人民大学	復旦大学	華東師範大学	華東理工大学
設置年度	1999年	1999年	2000年	2000年	2001年	2002年
センター数	62	28	50	6	34	2
コース	修士, 大学	修士, 大学	大学, 短大	修士, 大学, 短大	修士, 大学, 短大	大学, 短大
専攻	情報処理, 企業管理, 民商法学, 刑法	法学, 国際経済, 漢語, 言語学, 行政管理, 情報処理	金融, 財政, 国際貿易, 公共事業管理等 9専攻	ジャーナリスト学, 国際経済貿易, 金融学, 日本語, 英語	教育学, 体育教育, 教育情報技術, 国語教育,	情報処理, 会計学, ビジネス, 国際経済貿易
学生数	2万人	1.5万人	3万人	約1万人	1.2万人	数千人

ここで、華東師範大学「ネットワーク教育学院」を事例にみてみよう。

華東師範大学「ネットワーク教育学院」は、東部沿海地域を中心に34の「センター」を設置している。徐常務副院長によれば、地方「センター」の設置は、「必ず衛星受信やパソコン等通信設備が充実する短大以上の高等教育機関でなければならぬ」という。地方の高等教育機関にこだわる理由として、補助講義と対面式の指導は、(場所を貸してくれる)当該大学(短大)の関連の教員を、そのまま活用できるからという。

3. 科目, コース, 入試等について

ここに、北京市と上海市にある6大学の「ネットワーク教育学院」について、実態を調べてみる。

まずは、受け入れのコースについて、①4大コース、②短大コース、③4大編入コース、④修士コース と、4つの受け入れコースがある。そして、時間帯によって、白昼に開講する「全日制」と、休日と夜間だけに開講する「業

余制」にも分かれている。

①の4大コース、特に「全日制」で開講する4大コースは、高卒に人気が高い。それに対して、③の4大編入コースと、④修士コースには、社会人が多く集まっている。これまでの中国の高等教育制度で短大卒は多かった。また当時の人事制度では、短大卒も公務員教員になれたから。それに、一般大学では、三年次への編入はとても難しい。何よりも、職をもつ社会人が全日制の大学に通学するのはとても無理であるから。このような構造的な「市場」を狙って、各「網絡教育学院」は、それぞれ（親）大学のブランドと得意な専門科目を武器にし、「学歴昇級」をメインとする継続教育に力を入れている。

清華大学「網絡教育学院」には、2万人もの「網絡生」が在学している。うちの4,000人が地方検察庁の職員である。短大卒の彼らは、清華大学の「網絡生」として編入コースに入り、2年後は、4大卒の学歴を取得する予定である。また、一部には、学士号も与えられる。

似たような事例ではあるが、北京大学の「網絡教育学院」には、現役の裁判官が1万人近く在学している。彼らも短大卒で、4大卒の編入コースに入ったのである。法学専攻で2年後は本科（大学）卒の資格が与えられる。

華東師範大学について、得意な教育関連科目を売り物にし、短大卒の中小教員のためには、4大編入コースを開設する一方、大卒の教育行政職員のためにも、「教育行政管理」という修士課程レベルのコースを提供している。

同じく上海市にある華東理工大学は、同付属の短大卒を中心に、4年編入用コースを立ち上げた。また、中等専門学校卒のための4大コースも人気が高い。

総じて言えば、網絡教育学院の修学年限は若干長い。それは、社会人に対する配慮とも考えられる。4大コースは最短4年、最長6－8年である。

中国では、毎年大学統一試験が行われているが、「網絡教育学院」は例外である。「自主出題、自主採用」の権限は、「網絡教育学院」だけに与えられている。入りやすいのは、「網絡教育学院」の急成長の最大要因とも言われている。

学費について、コースによって高安まちまちではあるが、一般コース並みまたは若干安いのが多い。宿舎代と食費と交通費が節約するが、電話代、ネット代がかかる。

学歴について、教育省の通達では「国が承認する」と明確に規定している。

規定により、国が統一印刷の一般大学の卒業証書がそのまま使われる。但し、「網絡教育」の4文字を付け加えなければならない。例えば、「北京大学 法学専攻卒(網絡教育)」、「華東師範大学 技術教育専攻卒(網絡教育)」といった感じである。

学士号の授与も可能であるが、「全科目70点以上、平均75点以上、卒論の評価は良好以上」と規定する大学はほとんどである。

終わりに

ここに、「網絡教育学院」の特徴と問題点を整理してみる。

第一、設置の大学はすべて一流である。ネット大学の設置に関して、政府は、一部有名大学に限って少しずつ許可を出している。2003年現在、中国の大学は1,200校(600校の成人大学は含まれてない)以上もあるが、許可されたのは、たったの67大学しかない。名前をみても分かるように、北京大学、清華大学といった中国を代表する一流の大学ばかりである。

第二、入学試験は易しい。全国統一試験ではなく、いわゆる「自主出題、自主募集」で、科目免除の特典もある。

第三、ネット大学に開設している専攻は、それぞれ大学の得意科目に限っている。例えば、北京大学なら法学関連、中国人民大学ならビジネス関連である。

第四は、システムが柔軟で、修学年限が長い(2-8年)。

しかし、問題も多くある。ことに、「網絡生」の質が低いとの懸念が根強い。もともと、統一試験を受けてないものや低得点の学生が多く入れたから。このような事実上の「一校二制」(一つの大学に平行する二つの入試制度)の問題で、公平性や平等性も問われる。それもあって、「網絡生」に対する社会的な評価はいま一つである。

終わりに、「網絡教育学院」と「生涯教育体制の構築」について、中国政府の見解を検証してみる。

周知の通り、中国では、一般大学のほか、社会人向きの「成人大学」があり、募集の対象が違っている。

「ネットワーク教育学院」の設置許可第一号となる「教育部（教電（1999）1号）1999年3月25日）によれば、同ネットワーク大学の設置意義と目的について「高等教育規模の拡大」としながらも、「小中学校教員のレベルアップに寄与し、生涯教育体制の推進……」とはっきり言っている。つまり、「ネットワーク教育学院」の設置当初から、募集の対象は社会人に傾いているし、生涯教育体制の一環として意識しているとも考えられる。しかし、ちょうど「大学拡大募集」のキャンペーンにあたり、そのまま大量募集のブームに巻き込まれたわけである。当時、誕生したばかりの「ネットワーク教育学院」としては、やはり経営とコストのことを考えて、まずは募集しやすい、しかも市場の需要が大きい高校生をターゲットにしたのであろうと思われる。中には、コストを極度に意識し、スケール（数）ばかり求め、低得点の高校卒を大量入れる大学もある。そして、それに見合うような教育指導や管理監督が怠っている。

そのため、教育省は2002年7月8日に「ネットワーク教育学院の管理強化と教学質の向上に関する若干意見」との通達を下した⁽⁴⁾。同通達は、各大学の「ネットワーク教育学院」に対し、「地方の学習センターの管理体制を点検し、大学の管理監督責任を徹するよう」、「高卒を対象とする全日制コースの募集は減少または停止すべきだ」と指示し、「ネットワーク教育学院」の方向性について「ネットワーク教育学院は、就業者のための継続教育を主としなければならない」と明言し、今後は「学歴取得コースのほか、職業資格証書や関連専門教育を実施し、継続教育へ向けて推し進める」とも指導している。更に、「ネットワーク教育学院」と政府の生涯教育体制構築の関連について、「ネットワーク教育（ネット教育）を、成人高等教育や各種の継続教育との融合を促進し、ネットワーク化・オープン化の生涯教育体系の構築を目指す」と明言している。

2004年現在、67大学のネットワーク教育学院は、当年高卒を対象とする全日制コースの募集を中止した。教育省は重大な違反を犯した一部の「ネットワーク教育学院」に対し、1年間募集中止の処分も出ている⁽⁵⁾。

最新の情報によれば、2004年2月、教育省が出した「2004年度ネットワーク教育学院の募集に関する通達」の中にも、「ネットワーク教育学院は、就業者のための継続教育を主としなければならない」と重ねて強調した。また、北京大学等一部の大学は、従来の夜間大学や成人教育学院を、「ネットワーク教育学院」への組織的な統合に向けて動き出している。

<注>

- (1) 「北京上海高等教育普及化段階に入り」、『中国青年報』、2004年2月3日。上海教科院發展研究中心「中国高校拡招三年大盤点」、『教育發展研究』2002年9期，上海市教育科学院。
- (2) 教育部電化教育司「教電（1999）1号」1999年3月25日。<http://210.51.180.71/html/yc/index.jsp> 北京邮电大学远程教育简介
- (3) 中華人民共和国教育部「中国教育發展与發展情況」，2004年1月6日 www.moe.edu.cn/news/2004
- (4) 教育部关于加强高校网络教育学院管理提高教学质量的若干意见 教高〔2002〕8号 <http://www.chinaonlineedu.com/wangyuan/rule/index.asp>
- (5) 教育部「関与2004年度現代遠程教育試点高校網絡招生工作的通知」<http://www.chinaonlineedu.com/wangyuan/notice/special.asp?id=37>
- (6) 同(5)